



待ち行列研究部会

当部会では発足以来、(1)ときどき(だいたい順番がきたら)自分の勉強していることを中心に話をする、(2)割り当てられた雑誌に載っている論文を抄録する、という2つの“義務”を果たすことを条件に、学会の会員の参加は自由という建て前で運営してきている。おおむね隔週土曜午後3時から7時まで定期的に開催し、9月までに30回を数える会合を開いた(場所は東京工大南棟452号室、連絡先は03-726-1111内線2453)。現在までに出席されたことのある方は20人をこえ、常時10人前後の出席がある。

上記(2)は昨年10月ごろから始め、現在までに100編余の抄録を行なったが、まだ対象論文の半ばぐらいにしか達していない。待ち行列の論文は数多く、世界中では年間100編をこえるであろう。

ところで、これらの抄録は、メモがわりであって最低限のことしか書いてないため、部会の会合で口頭による説明を加え、若干の質疑応答を行なって各人の理解に努めている。メンバーはそのコピーを各自のもっとも使いやすい形に分類整理して役だてるつもりでいる。

この抄録活動のなかから選ばれたいくつかの重要な文献や昔からの重要な論文は、適宜テーマごとにまとめた総合報告的な形で報告される。われわれはこれを“教養番組”と称している。

ときには1人や3人ということもあるが、原則的には2人のspeakerが話し、1つは教養番組、1つは研究発表という組合せで1日の会合がもたれることが多い。研究発表とそれに対する討論は、研究部会としてもっとも重視しなければならないから、だれかが話をしたいというときには優先的に扱われる。はじめのうち、“雑談記録”と称する討論記録を若い人達がとってくれたが、最近ではあまりにも労働過重になることから取止めになった。しかし、昔の記録をいま読み返してみると、結構面白いし、研究の助けにもなりそうである。

発足以来1年半の間に討論されたテーマも多岐にわたっており、部会一丸で1つのテーマにアタックするという姿勢はとられていない、まとまりのなさ

を批判されるかもしれないが、だれでも自由に参加できるという建て前と、待ち行列論の現在置かれている状況からみて、これも致し方ないことだとは思っている。しかし、主査個人としてみれば、このなかからテーマがしぼられ、数人の協同によって研究が進められて行く態勢が自然に出てくれば、部会の効果がきわめて大きかったということができて有難いという感じはもっている。

さて、いままでに取り上げられた話題を、おおざっぱな分類をしながらあげておこう(カッコ内の数字は、それが報告された会合が、第何回の会合であるかを示し、*はいわゆる教養番組を示す)。

1. 一般的な取扱いと基礎理論

(1)待ち行列の規律(0,6鈴木武次)、(2)待ち時間と行列の長さの関係(2森雅夫,19吉田裕)、(3)待ち時間の不等式(0森,6鈴木)、(4)待ち行列の相関*(3,9藤沢武久)、(5)マルコフ過程と待ち行列*(17鈴木)、(6)マルコフ連鎖の推移確率の微小変化の影響(29高橋幸雄)、(7)待ち行列の代数*(森村英典)。

2. 特定のモデルと特殊な問題

(1)システムのコントロール(1,8,21前島信,8森)、(2)ラッシュ・アワー(23*,25,27森)、(3)output process*(18,22藤沢)、(4)M/G/S(13森)、(5)M/G/Sの過渡状態(28橋田温)、(6)到着数にマルコフ性をもつ待ち行列(15牛島孝夫)、(7)再呼(20西村俊之)、(8)統計的な問題(0,4,11,21森村,藤井光昭)、(9)近似問題*(20鮫島晃太郎)。

3. 通信システムとコンピュータシステム

(1)通信システムにおける待ち行列(3藤木正也,村尾洋,橋田温)、(2)電子交換(5橋田,7村尾)、(3)共通線信号方式(6藤木)、(4)データ通信(10吉田,12橋田)、(5)総合通信網(14藤木)、(6)オンライン・リアルタイム(9,16高田あけみ)、(7)GPSS*(22伊阪哲雄)、(8)コンピュータシステム*(4高塩満)、(9)航空管制(2加藤彰明,5岸尚,6高橋)。

4. シミュレーション

(1)Wnの概収束(13鈴木)、(2)待ち時間パラメータの推定*(14森)、(3)サービス時間に相関のあるタンデム型(27下城康世)。

6. その他

(1)分類基準 (17, 19下城), (2)運営方針の相談 (0, 7, 8, 10, 11).

以上の話の資料や雑談記録, 文献抄録などご覧に



中部支部

1. OR研究会——2つの型に

月に1度集まるOR研究会が, 支部最大の活動であり, これを中心に支部運営を考えている。これまでは, 会員の1人がもっているテーマを報告してもらい, それについての質疑応答と若干の討論でお願いします, という聞きっ放しであり, しかも話題も手持ちのものを話す, ということでさまざまであった。今年度は少しこれを改めようかと幹事は考えている。

研究会を, お話を聞くという啓蒙普及の講演会型のもの, あるテーマを定めて会員が問題やケースを出し合い2, 3回かけて討論してまとめるという型と, 2つを考えている。

今年度前半は, 第2の型の準備もないので, 講演会型が集中した。5月の総会のあと, 京大・坂井利之教授と小野支部長による特別講演会を聞き40名以上を集めた。また7月には, Cost-Effectiveness 視察団の田中庸平氏 (中部電力), 9月には会計情報システム視察団の東大・津曲直躬助教授をお招きしてお話を伺った。後者の形としては, どの企業にもある在庫と保守の問題を取り上げ, 各会員からいろいろなケースや問題点を出してもらい, 何回かかけて総合的に討論したり, 関連したところの見学や, JALにおける保守のお話を伺うなどの計画をしている。

2. 支部運営を幹事会に——規約改訂

5月23日の支部総会で支部規約の一部改訂案が可決され, 7月8日の本部理事会で承認され, 4月1日さかのぼって実施されることになった。この総会の議事録と改正規約は支部会員に配布されるが, おもな改正はつぎの通りである。

これまで支部の運営は, 支部長と若干名の運営協議員があたり幹事がこれを助けることになっていた。これを幹事会 (正副支部長と5名以内の幹事) が運営にあたり, 新たに設けた支部評議会がその大枠を

決めることに, 隔通性をもたせることになった。また役員任期は2年と定められた。前号の経営科学の支部総会報告には, 中部支部役員名簿が欠けていたので補足する。

支部長 小野勝次

副支部長 飛田武幸

支部評議員 天野菊彦, *榎本久徳, *藤波 健, 疋田遼太郎, 広沢金久, 平石義則, *岩田 怜, *岩田好弘, 畔柳藤男, 村手光彦, 本告光男, *真鍋竜太郎, 依田 浩, 山田英夫

支部監事 梅田俊雄, 加藤豪

支部幹事 上記中*印5名が兼務。

3. 支部について

支部だよりの主旨からはずれるかもしれないが, 支部の運営に参加していて感じることをちょっと書かせていただく。

幹事を勤めていて感ずるのは, どのくらいの支部会員が現在の活動を支持してくださっているのだろうか, とくに遠方に住む会員はどうなのだろうか, ということだ。100名の支部会員のうち30~40名の方が昨年は毎月の研究会に出席している。しかし, これは名古屋周辺の人に限られる。遠方の人は支部からのサービスはいっさいない。たとえば, 北陸にいる会員にとって支部とはなんであろうか。九州支部は年4回も支部報を出しておられるが, 中部にはちょっとできない。これをOR学会の本部レベルの活動について考えても同じことで, 学会活動は東京中心主義であるといえよう。会誌と, 春秋の研究発表会以外の, いくつもの研究部会や月例講演会は地方には無縁とならざるをえない。この夏休みに上京した折に, たまたま機会があって月例講演会を1つ聴き, ある研究部会に出席することができ, 最近にない刺激を受けた。地方にいると顔ぶれもレパートリーも限られ, こういう機会はなかなかない。

この2つの活動が盛んになるのは賛成だが, 同じ資格の地方会員にもなんらかのサービスが伝わるよ